

国際労働移動とジェンダー

2019年11月23日(土)

13:30~17:00(開場13:00)

参加費無料(事前申込不要 定員280名)

北海道大学 文系共同講義棟
 <軍艦講堂>2階 8番教室
 札幌市北区北10条西7丁目



講演

国際労働移動をジェンダー視点で読む—gender and migration 研究領域の形成・展開・意義

伊藤るり(いとう るり)

津田塾大学総合政策学部教授。専門は国際社会学、国際移民のジェンダー分析。最近10年ほどは、パリで就労するフィリピン人家事労働者の生活・就労の実態、ならびにILOの「家事労働者のためのディーセントワーク条約」と各地の家事労働者運動に関する研究を行っている。主な編著書に『ジェンダー研究を継承する』(共編著、2017年)、『国際移動と連鎖するジェンダー』(共編著、作品社、2008年)ほか。

送り出し国 フィリピンから考える 国際労働移動とジェンダー

小ヶ谷千穂(おがや ちほ)

フェリス女学院大学文学部教授。専門分野は、国際社会学、国際移動とジェンダー研究。主著に、『移動を生きる—フィリピン移住女性と複数のモビリティ』(有信堂高文社、2016年)、『国際社会学』(共編著、有斐閣、2015年)、『ローマで働くフィリピン人男性移住家事・介護労働者の職業観とジェンダー—移動する家族の物語から考える—』(『女性労働問題研究』第62号、2018年)など。

ケアの未来と外国人労働者

小川玲子(おがわ れいこ)

千葉大学社会科学研究院准教授、千葉市男女共同参画審議会委員、移民政策学会理事。専門分野は、社会学、移民研究。近著に、『Gender, Care and Migration in East Asia』(Palgrave Macmillan, 2018, 共編著)、『Women, Work and Care in the Asia-Pacific』(Routledge, 2017, 共著)、『Guest Editor, Special Issue on Migration and Care Work, Asia Pacific Journal of Social Work and Development』(2017)など。

コメンテーター

館田晶子(たてだ あきこ)

北海道大学法学部教授。専門分野は、憲法、国籍法、外国人の人権。主著に、『人権としての国籍の可能性』憲法理論研究会編『憲法の可能性』(敬文堂、2019年(近刊))、『国籍をめぐる世界の潮流』国籍問題研究会編『二重国籍と日本』(ちくま新書、2019年(近刊))など。

安部由起子(あべ ゆきこ)

北海道大学経済学研究院教授。専門分野は、労働経済学。主著に、『Transplanting corporate culture across international borders: Foreign direct investment and female employment in Japan』The World Economy 41(5) 1148-1165, co-authored with Naomi Kodama and Beata Javorcik (2018)、『Intra-metropolitan spatial patterns of female labor force participation and commute times in Tokyo』Regional Science and Urban Economics, 68, 291-303, co-authored with Mizuki Kawabata (2018)など。

司会

水溜真由美(みずたまり まゆみ)

北海道大学大学院文学研究院准教授、応用倫理・応用哲学研究教育センター運営委員



国際労働移動と ジェンダー



2019.11.23

近年、少子高齢化に伴う人手不足を背景として様々な分野で外国人労働力への期待が高まっています。その1つが介護・家事などのケア労働・再生産労働の分野です。外国人労働力の受け入れを積極的に進めてきた諸外国では、ケア労働・再生産労働を女性外国人労働者に大きく依存する構造がありますが、近年は日本にも同様の動きが見られます。女性外国人労働者の増加は、家族関係や職場でのハラスメントなど、様々な問題を浮上させます。本シンポジウムでは、この問題に関する研究史を知り、諸外国の事例に学び、そして日本の現状をふまえながら、国際労働移動とジェンダーの関わりについて考えたいと思います。



伊藤るり

国際労働移動をジェンダー視点で
読む—gender and migration
研究領域の形成・展開・意義

国際労働移動研究にジェンダー視点を導入する潮流が登場したのは、1980年代半ばです。当初は不可視化された女性移住労働者の掘り起こしが中心でしたが、その後、「国際移動の女性化」も相俟って、「再生産労働の国際分業」や「グローバル・ケア・チェーン」といった新しい概念が打ち出され、トランスナショナルの視角から移住看護師家族のジェンダー関係再編を読み解く研究なども生まれてきました。こうした研究領域の形成と展開を概観し、また日本での状況も踏まえつつ、その意義と課題について報告します。

小ヶ谷千穂

送り出し国フィリピンから考える
国際労働移動とジェンダー

海外雇用政策を持つフィリピンは、世界中に数多くの女性労働者を送り出してきました。その多くが再生産・ケア労働分野で就労しています。労働者の出身社会の側から世界で進む再生産労働の国際分業を考える時に浮かび上がる視点とは何でしょうか。また、フィリピン出身の移住労働者たちはどのように自分たちの権利向上に取り組んできたのでしょうか。日頃あまり考えることのない、移住労働者の出身社会側の視点から、国際労働移動とジェンダーについて考察していきます。

小川玲子

ケアの未来と外国人労働者

東アジアの急速な少子高齢化に対する対応として、外国人労働者の受け入れが加速化しています。日本でも入管法が改正になり、複数の制度が乱立する中で、外国人ケア労働者の受け入れが進められています。経済連携協定による受け入れから10年を経て、ケアの現場はグローバル化のフロンティアになりつつあります。ケアの現場で働く外国人とはどのような人たちで、彼女ら・彼らの存在はケアの在り方をどのように変容させていくのか、共に考えたいと思います。



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



お問い合わせ 応用倫理・応用哲学研究教育センター事務局
Email: caep@let.hokudai.ac.jp Tel: 011-706-4088 (平日 11:00-17:00)
URL: <http://caep-hu.sakura.ne.jp/> Twitter: @caep_hu